

筋弛緩剤

6件のランダム化比較試験により検討され、CLD発症に有意な差を認めなかったものの、IVHのグレードに有意差あり。副作用ともに有意な差を認めなかった。

科学的根拠のまとめ

デキサメサゾンの投与によりCLDが減少するという十分な化学的根拠がある。しかし、その長期予後を悪化させることもわかっており投与方法、投与量といったことに注意が向けられている。ハイドロコルチゾン、ベタメサゾンによる効果判定に症例の蓄積を待ちたい。

利尿薬に関しては、肺機能を改善する可能性はあるもののルーチンで投与するまでの有意な化学的根拠は見出せなかった。

ビタミンAに関してはCLD発症の減少を認めしたが、長期予後の検討を待ちたい。

ビタミンEに関してはCLD発症に関して有意な科学的根拠は見出せなかった。

Superoxide dismutaseに関しては有意な化学的根拠は見出せなかった。

Cystein, Nacetylcysteineに関しては有意な化学的根拠は見出せなかった。

Seleniumに関してはCLD発症の減少を認めしたが、限定した地域でのRCTであり、症例の積み重ねを待ちたい。

サイロキシンに関しては有意な化学的根拠は見出せなかった。

エリスロポエチンに関しては有意な化学的根拠は見出せなかった。

気管支拡張剤に関しては有意な化学的根拠は見出せなかった。

筋弛緩剤に関しては有意な化学的根拠は見出せなかった。

9b. 慢性肺疾患児の吸入療法

科学的根拠の詳細

全身投与 対 吸入薬 ステロイド

5件のランダム化比較試験により検討され、どちらの研究においても効果、副作用ともに有意な差を認めなかった。

吸入薬 対 プレセボ

気管支拡張薬

1件のランダム化比較試験により検討され、どちらの研究においても効果、副作用ともに有意な差を認めなかった。

ステロイド

人工呼吸器装着中の児については8件のランダム化比較試験にて検討され、吸入ステロイドにより、抜管の成功率が有意に高いとする研究もあったが、敗血症の罹患率などその他のアウトカムに差があるという根拠はなかった。

デキサメサゾン VS ベクロメサゾン

デキサメサゾンは肺機能改善、早期抜管に有効であったが少量のベクロメサゾンは効果がなかった。

利尿薬

2件のランダム化比較試験により検討され、一時的な呼吸機能以外、有意な差を認めなかった。

用量

吸入利尿薬

2件のランダム化比較試験にて検討されている。1mg/kgとそれ以下の用量との吸入2時

間後の比較では有意な差を認めなかった。1mg/kg と 2mg/kg の比較では、両方とも吸入 4 時間後をピークとして値の変化はあり、2mg/kg の方が尿量とコンプライアンスの上昇を認めたが、それ以外の呼吸機能などに有意な差は認めなかった。

科学的根拠のまとめ

吸入薬が全身投与薬に比べて効果的であるといったことや、副作用の軽減が認められるという科学的根拠は不十分である。プレセボに比べて吸入ステロイド薬による抜管成功率の上昇以外、明らかに有意な科学的根拠はなかった。

10. モニター・検査

科学的根拠のまとめ

新生児慢性肺疾患の際の、各種検査方法に関して、質の高い研究は見つからなかった。

11 a. 慢性肺疾患児の外来管理

科学的根拠の詳細

うつぶせ寝か仰向け寝か

新生児慢性肺疾患罹患児の退院時におおむけ寝においても呼吸循環状態の安定性が維持できるかを検討したランダム化比較試験（クロスオーバー）を一件認めた。ニュージーランドの新生児三次医療施設に入院した、在胎週数 24 週以上 32 週未満で退院可能な児を対象とし、多施設への転院例と先天奇形例は除外した。うつぶせ寝群では退院の 1-2 日前に 2-3 時間の昼寝、食後、うつぶせ寝、仰向け寝という順番でポリソムノグラフィを二回行う。仰向け寝群は仰向け寝、うつぶせ寝とい

う順番でおこない、酸素飽和度と AHI (Apnoea hyponoea index=睡眠中一時間あたりの無呼吸あるいは低頻度呼吸回数) を検討した。慢性肺疾患のあるなしは結果に有意な影響を示していなかった。酸素飽和度も AHI も睡眠ポジションとは有意な関係は認めなかった。仰向け寝においてはより週数の浅い児において静眠時間が有意に短かった ($P=0.006$)。週数の浅い児において、AHI が高い傾向にあった ($P=0.03$)。動眠時には AHI は高く ($P=0.01$)、酸素飽和度は低い ($P=0.001$) 傾向にあった。

科学的根拠のまとめ

早産児が退院する際の呼吸安定状態は慢性肺疾患のあるなしではなく、成熟度と影響しているようである。

11 b. 在宅酸素療法

科学的根拠のまとめ

新生児慢性肺疾患罹患児の、在宅酸素療法に関する、質の高い研究は見つからなかった。

作成した構造化抄録を巻末に示した。

D. 考察

新生児慢性肺疾患の診療に関する科学的根拠はトピックによってその質はさまざまである。最新の科学的根拠をまとめることは診療の方針を考える上で役立てると考えられた。

E. 結論

新生児慢性肺疾患の最新の科学的根拠をまとめた。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
田村正徳	新生児・乳幼児の呼吸管理	第13回3学会合同呼吸療法認定士認定講習会テキスト	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会事務局	東京	2008	335-357
田村正徳：監修		日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法インストラクターマニュアル	日本周産期・新生児医学会	東京	2008	
田村正徳：監修		本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法講習会講義スライド (CD-ROM for Windows)	日本周産期・新生児医学会	東京	2008	
田村正徳：監修		最新赤ちゃんの病気大百科	ベネッセコーポレーション	東京	2008	
田村正徳	新生児・乳幼児の呼吸管理	第12回3学会合同呼吸療法認定士認定講習会テキスト	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会事務局	東京	2007	353-367
田村正徳	新生児・乳幼児の人工呼吸療法	新生児・乳幼児における人工呼吸療法の特徴「CE技術シリーズ「呼吸療法」	南江堂	東京	2007	103-122
田村正徳	新生児管理	産婦人科診療コンパス	メディカルビュー社	東京	2007	134-144
田村正徳	新しい新生児蘇生法	産婦人科(専門医にきく最新の臨床)	中外医学社	東京	2007	130-135
田村正徳	早産児(未熟児)・新生児	Clinical Engineering 別冊 人工呼吸療法 改訂4	秀潤社	東京	2007	392-398
田村正徳	倫理的問題、分娩室ルチンと蘇生術、呼吸管理	NICUマニュアル 第4版	金原出版	東京	2007	5-8、31-38、290-305
田村正徳：監修		日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト 第一版	メジカルビュー社	東京	2007	
田村正徳	新生児の救急蘇生法	救急蘇生法の指針2005 医療従事者用	へるす出版	東京	2007	127-134
田村正徳：監訳		AAP/AHA 新生児蘇生テキストブック 第五版	医学書院	東京	2006	

田村正徳	新生児・乳幼児の呼吸管理	第11回3学会合同呼吸療法認定士認定制度認定講習会テキスト	3学会合同呼吸療法認定士認定委員会事務局	東京	2006	351-366
田村正徳	新生児疾患・新生児の異常徴候他2	標準小児科学第6版	医学書院	東京	2006	82-100

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Shoichi Ezaki, Keiji Suzuki, Clara Kurishima, Masumi Miura, Wan Weilin, Reiichi Hoshi, Shizue Tanitsu, Yuzo Tomita, Chikako Takayama, Masaki Wada, Tsutomu Kondo, Masanori Tamura	Resuscitation of Preterm Infants with Reduced Oxygen Results in Less Oxidative Stress than Resuscitation with 100% Oxygen.	Journal of Clinical Biochemistry & Nutrition.	44	1-8	2009
木原秀樹 廣間武彦 中村友彦 宮川哲夫 田村正徳	NICUにおける呼吸理学療法の有効性と安全性に関する全国調査—第2報—	日本未熟児新生児学会雑誌	21(1)	57-64	2009
櫻井淑男 田村正徳	小児二次救命処置 (PALS) に則した蘇生の実際	小児科	50(2)	145-155	2009
斎藤滋 田村正徳	シンポジウム2「早産—予防・出生児の管理・手術の限界」座長のまとめ	日本周産期・新生児学会雑誌	44(4)	829	2008
側島久典 荒川ゆうき 長田浩平 川崎秀徳 浅野祥孝 星礼一 伊藤智朗 本田梨恵 高山千雅子 江崎勝一 國方徹也 鈴木啓二 田村正徳 小高明雄 馬場一憲 照井克生,	シンポジウム2「早産—予防・出生児の管理・手術の限界」胎児診断早産児小児外科症例への新生児科医としての管理への考察,	日本周産期・新生児学会雑誌	44(4)	840-844	2008
田村正徳 山口文佳	予後不良とされる疾患への新生児科医師の対応と「重篤な疾患を持つ新生児の家族と医療スタッフの話し合いのガイドライン」の活用	日本周産期・新生児医学会雑誌	44(4)	925-929	2008
櫻井淑男、田村正徳	小児救急—救命救急, PICU	小児科診療	71(11)	1856-1858	2008
田村正徳	ILCORタスクフォース「Neonatal」	CPR News	10	6	2008
田村正徳	標準的な新生児心肺蘇生法をすべての周産期医療従事者に	Medical Tribune	41(37)	72-73	2008

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
田村正徳	出生前診断された高度な肺低形成を伴う横隔膜ヘルニアの出生前後ノプロトコールとその問題点	日本小児外科学会雑誌	44(4)	646-647	2008
田村正徳、杉浦正俊	日本周産期・新生児医学会の日本版新生児心肺蘇生法普及講習会推進事業(NCPR)紹介	ニキュ・メイト	6(22)	3-4	2008
Ezaki S, Clara K, Suzuki K, Kondo T, Tamura M	Resuscitation of preterm infants with reduced concentration of inspired oxygen -less oxidative stress than 100% oxygen-	Journal of paediatrics and Child health	43.43(supple)	112	207
Ezaki S, Ito T, Suzuki K, Tamura M	Association between Total Antioxidant Capacity in Breast Milk and Postnatal Age in Days in Premature Infants.	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition.	42(2)	133-137	2008
近藤乾、田村正徳	「わが国のNICUにおける新生児心肺蘇生法研修体制に関するアンケート調査結果」	周産期医学	37(2)	177-180	2007
伊藤智朗、田村正徳	先天性横隔膜ヘルニアの長期フォローアップ	小児外科	39(10)	1127-1131	2007
田村正徳	分娩立ち会いと新生児心肺蘇生	Neonatal Care	20	42-60	2007
田村正徳	新生児の蘇生	救急医学	31(9)	1079-1079	2007
田村正徳	特集：助産師に役立つ救急時の取り扱い 日本版新生児心肺蘇生法普及講習会推進事業	助産師	61(3)	6-16	2007
田村正徳	Consensus2005に則った新しい「新生児心肺蘇生法ガイドライン」	ニキュ・メイト	19	1-2	2007
斎藤孝美、田村正徳	超低出生体重児の栄養と予後	周産期医学	37(4)	469-472	2007
田村正徳	ハイリスク妊娠アライアンス 周産期スタッフのための実践的診断指針 新しい新生児心肺蘇生法	ペリネタルケア 夏季増刊号	337	252-263	2007
田村正徳	新生児心肺蘇生法	産婦人科の世界	59(4)	323-334	2007
櫻井淑男、田村正徳	出生直後の新生児心肺蘇生法における気管挿管	周産期医学	37(2)	239-244	2007

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
田村正徳	北米における新生児蘇生プログラム (NRP) の普及の背景と、その必要性	助産雑誌	61(2)	94-99	2007
和田雅樹、田村正徳	新生児心肺蘇生プログラム(NRP) の実際—胸骨圧迫の方法	助産雑誌	61(2)	120-127	2007
田村正徳	onsensus2005における新生児心肺蘇生法の主たる改正点	周産期医学	37(2)	165-169	2007
和田雅樹、田村正徳	わが国の分娩取扱い施設における新生児心肺蘇生対策の現状	周産期医学	37(2)	171-176	2007
和田雅樹、田村正徳	出生直後の新生児の扱い方—仮死児	周産期医学	37(1)	21-24	2007
田村正徳	Consensus2005に則った新しい新生児心肺蘇生法	小児科診療	4(70)	18-27	2007
田村正徳	HFO	Neonatal Care	20(2)	140-145	2007
田村正徳、櫻井淑男	救急救命士ならびに救急隊員による分娩直後の新生児蘇生法	救急ジャーナル	83	36-41	2007
田村正徳	分娩立ち会いと新生児心肺蘇生	NICU 夜勤・当直マニュアル	秋季増刊号		2007
田村正徳	受難の時代”における医療の質向上と安全な呼吸ケア	呼吸器ケア	4:6	41	2006
田村正徳	新生児蘇生手技の標準化	第21回群馬周産期研究会総会	56:2	188-189	2006
和田雅樹、田村正徳	特集：児の予後から見た産科リスク因子1. 低リスク新生児への対応	産科と婦人科	73:10	1-6	2006
江崎勝一、三浦真澄、栗嶋クララ、和田雅樹、近藤乾、田村正徳	新生児心肺蘇生法における酸素投与の功罪—酸素投与に対する抗酸化力とフリーラジカルへの影響、	日本周産期・新生児学会周産期シンポジウム	24	27-32	2006
田村正徳	AHA国際ガイドライン2000に基づいた新生児の心肺蘇生	川越クリニックカンファレンス・講演抄録集III	3	191-202	2006
廣間武彦、中村友彦、木原英樹、田村正徳	「NICUにおける呼吸理学療法ガイドライン」作成のためのアンケート調査結果	日本未熟児新生児学会雑誌	18:1	61-66	2006
Sakurai Y, Obata T, Matsuoka K, Sasaki H, Nomura M, Murata M, Takeda S, Tamura M.	anti-growth effect of the endocannabinoid receptor (CBI and CB2) blockers on the liver cancer cell lines	Prostaglandins & other Lipid Mediators	79	144-194	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hiroma T, Baba A, Tamura M, Nakamura T	Liquid incubator with perfluorochemical for extremely premature infants.	Biol Neonate	90	162-167	2006
Kosho T, <u>Nakamura T</u> , Kawame H, Baba A, <u>Tamura T</u>	Fukushima Y Neonatal management of Trisomy 18: Clinical details of 24 patients receiving intensive treatment	Am J Med Genet	140A	937-944	2006
akabayashi T, <u>Tamura</u> <u>M</u> , <u>Nakamura T</u>	Partial Liquid Ventilation with Low-Dose Perfluorochemical and High- Frequency Oscillation Improves Oxygenation and Lung Compliance in a Rabbit Model of Surfactant Depletion	Biol Neonate	89	177-182	2006

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
上谷良行	低出生体重児のフォローアップと栄養アセスメント	板橋家頭夫	Neonatal Care 2008年秋季増刊	メディカ出版	大阪	2008	2654-267

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
平野慎也	慢性肺疾患に対するステロイド吸入療法	新生児内分泌研究会	新生児内分泌ハンドブック	メディカ出版	大阪	2008	p 179-184

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
平野慎也	小児治験での臨床検査値の測定と評価の留意点	月刊 PHARMSTAGE	第8巻 第3号	P20-24	2008年
平野慎也	周産期脳障害とその予防	周産期医学	第38巻6号	P757-761	2008年
平野慎也、藤村正哲、楠田 聡、青谷裕文	超低出生体重児の脳室内出血および動脈管開存症の発症予防（ランダム化比較試験）	日本小児臨床薬理学会雑誌	第20巻 第1号	p98-p102	2007年

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
中村友彦	新生児遷延性肺高血圧症		今日の治療指針	医学書院	東京都	2006	940
中村友彦	新生児の異常と看護		新看護学	医学書院	東京都	2006	172-183
中村友彦	新生児仮死	大関武彦 古川漸 横田俊一郎	今日の小児治療指針	医学書院	東京都	2006	113-114
廣間武彦 中村友彦	新生児心肺蘇生法の指針	岡元和文	救急・集中治療ガイドライン	総合医学社	東京都	2006	535-538
中村友彦	小さな心室中隔欠損	衛藤義勝	PBLに基づく小児科学症例テキスト	エンゼ [®] ピア・ジャパン	東京都	2006	51
清水健司 中村友彦	ガイドライン2005の新生児BLS(一時救命処置)の手順	岡元和文 森田孝子	院内急変と緊急ケアQ&A	総合医学社	東京都	2006	30-31
清水健司 中村友彦	ガイドライン2005の新生児ACLS(新生児二次救命処置)の手順	岡元和文 森田孝子	院内急変と緊急ケアQ&A	総合医学社	東京都	2006	32-33
田村正徳 真喜屋智子 近藤 乾 中村友彦 et, al.	陽圧換気のための蘇生装置の使用	田村正徳	AAP/AHA新生児蘇生テキストブック	医学書院	東京都	2006	3-1~ 3-58

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
三橋偉子 廣間武彦 中村友彦	ステロイド吸入による慢性肺疾患予防	小児診療	55	591-595	2007
三橋偉子 廣間武彦 中村友彦	新生児心肺蘇生における人工呼吸	周産期医学	37	225-231	2007
中村友彦	カンガルーケア中の留意点	日本産婦人科医学会報	59	12-13	2007
横山見子 廣間武彦 中村友彦	SIMV, A/C, VG	Neonatal Care	20	25-33	2007
佐野葉子 廣間武彦 中村友彦	低出生体重児の呼吸器病変と予後	周産期医学	37	515-518	2007
三橋偉子 廣間武彦 田村正徳 中村友彦	Liquid ventilation研究の最新の知見と臨床応用の可能性	周産期医学	37	815-819	2007
中村友彦	慢性肺障害	Neonatal Care	20	170-172	2007

Nakata S, Yasui K, Nakamura T, Kubota N, Baba N,	Perfluorocarbon suppresses lipopolysaccharide and α -toxigen-induced interleukin-8 release from alveolar epithelial cells	Neonatology	91	127-133	2007
Sunagawa S, Kikuchi A, Yoshida S, Miyashita S, Takagi K, Kawame H, Kondo Y, Nakamura T	Dichorionic twin fetuses with VACTERL association	J Obstet Gynaecol Res	33	570-573	2007
Miyachi K, Kikuchi A, Kitsunezaki M, Sunagawa S, Hiroma T, Takagi K, Ogiso Y, Nakamura T	Sudden fetal hemorrhage from umbilical cord ulcer associated with congenital intestinal atresia	J Obstet Gynaecol Res	33	726-730	2007
Shimizu A, Shimizu K, Nakamura T	Non-pathogenic bacterial flora may inhibit colonization by methicillin-resistant staphylococcus aureus in extremely low birth weight infants	Neonatology	93	158-161	2008
Ono K, Kikuchi A, Miyashita S, Iwasa Y, Miyachi K, Sunagawa S, Takagi K, Nakamura T, Sago H	Fetus with prenatally diagnosed posterior mediastinal lymphangioma: Characteristic ultrasound and magnetic resonance imaging findings	Congenital Anomalies	47	158-160	2007
Yoshida S, Kikuchi A, Sunagawa S, Takagi K, Ogiso Y, Yoda T, Nakamura T	Pregnancy complicated by diffuse chorioamniotic hemosiderosis: Obstetric features and influence on respiratory diseases of the infant	J Obstet Gynaecol Res	33	788-792	2007
Iwata S, Iwata O, Bainbridge A, Nakamura T, Kihara H, Hizume E, Sugiura M, Tamura M, Matsuishi T	FLAIR at term predicts chronic white matter lesions and neurodevelopmental outcome at 6 years old consequential to preterm birth	Int J Dev Neurosci (未着)	25	523-530	2007
Ishida T, Hiroma T, Hashikura Y, Horiuchi M, Kobayashi K, Nakamura T	A Case of early neonatal onset carbamoyl-phosphate synthase I deficiency treated with continuous hemodiafiltration and early living-related liver transplantation	Pediatr International (in press)			
Naito S, Hiroma T, Nakamura T	Continuous negative extrathoracic pressure combined with high-frequency oscillation improves oxygenation with	BioMedical Engineering OnLine	6:40		2007

	h less impact on blood pressure than high-frequency oscillation alone in a rabbit model of surfactant depletion				
Nakamura T	Two cases of infants who needed cardiopulmonary resuscitation during early skin-to-skin contact with mother.	J Obstet Gynaecol Res (in press)			
Wakabayashi T, Tamura M, Nakamura T	Partial Liquid Ventilation with Low-Dose Perfluorochemical and High-Frequency Oscillation Improves Oxygenation and Lung Compliance in a Rabbit Model of Surfactant Depletion	Biol Neonate	89	177-182	2006
清水健司 中村友彦	静注用デキサメタゾン(ステロイド剤)吸入用フルチカゾン(ステロイド剤)	Neonatal Care	19:1	19-21	2006
廣間武彦 中村友彦 木原秀樹 田村正徳	「NICUにおける呼吸理学療法ガイドライン」作成のためのアンケート調査結果	日本未熟児新生児学会雑誌	18:1	61-66	2006
Yoshida S, Kikuchi A, Naito S, Nakamura H, Hayashi A, Noguchi M, Kondo Y, Nakamura T	Giant hemangioma of the fetal neck, mimicking a teratoma	Japan Society of Obstetrics and Gynecology	32:1	47-54	2006
Kosho T, Nakamura T, Kawame H, Baba A, Tamura M, Fukushima Y	Neonatal Management of Trisomy 18:	Am J Med Gene	Part A ; 140A	937-944	2006
木原秀樹 中村友彦 廣間武彦	ポジショニングが早産児の睡眠覚醒状態や脳波に及ぼす影響	日本周産期・新生児医学会雑誌	42:1:	40-44	2006
大石沢子 中村友彦 廣間武彦	胎便吸引症候群	ペリネイタルケア	25:6:	28-34	2006
木原秀樹 中村友彦 廣間武彦	無気肺に対し気管内洗浄に積極的な呼吸理学療法を施行した早産児3例とECMO療法中の3例	日本未熟児新生児学会雑誌	18:2:	59-64	2006
中村友彦	新生児蘇生講習会・信州モデル	富山県産婦人科医会報	206	4	2006
Hiroma T, Baba A, Tamura M, Nakamura T	Liquid Incubator with perfluorochemical for extremely premature infants.	Biology of the Neonate	90	162-167	2006

木原秀樹 中村友彦 廣間武彦	NICUにおける呼気圧迫法 (squeezing) による呼吸理学療法の有 効性と安全性の検討	日本周産期・新生 児医学会雑誌	42:3	620-625	2006
近藤良明 横山晃子 廣間武彦 中村友彦	一画像診断— 新生児脳疾患のCT・MRI診断	周産期医学	36:10:	1271-1274	2006
中村友彦 山崎和子 井桁しげ子 宮下郁恵 西原淑恵 内田美恵子	病院と地域とのネットワークづくり —極低出生体重児フォローアップ事業・ 信州モデル—	周産期医学	35	496-499	2005
中村友彦	周産期医療における信州モデルの提言	長野県小児科医 会報	41	14-17	2005
廣間武彦 上谷良行 中村友彦 田村正徳	全国調査の結果からみた成育限界	小児科	46	2087-2092	2005
内藤幸恵 廣間武彦 中村友彦	酸素化と換気状態の評価	周産期医学	35	1535-1539	2005
Equan Z, Hiroma T, Sahasi T, Taki A, Yoda T, Nakamura T	Airway Lavage with exogenous surfactant in animal model of meconium aspiration syndrome	Pediatr Int.	47	237-241	2005
Kashima H, Unno N, Hyodo H, Hyodo HM, Nakamura T, Kondo Y, Noguchi M, Konishi I	Antenatal sonographic and magnetic resonance images of a giant hemangioma of the fetal skull	Ultrasound Obstet et Gynecol	25	522-525	2005
Nakamura H, Sawamura D, Goto M, Nakamura H, McMillan JR, Park S, Kono S, Hasegawa S, Paku S, Nakamura T, Ogiso Y, Shimizu H	Epidermolysis bullosa simplex associated with pyloric atresia is a novel clinical subtype caused by mutations in the plectin gene (PLEC1)	J Mol Diagn	7	28-35	2005

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
中山雅弘	専門医に必要な周産期病理学		MFICUマニュアル	MCメディカ出版	大阪	2008	437~443
中山雅弘	先天異常		わかりやすい病理学 改訂第5版	南江堂		2008	105~112

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
難波文彦、北島博之、中山雅弘、藤村正哲、柳原格	子宮内感染/炎症と抗アネキシンA2 IgM抗体	小児科	49	989~994	2008
白石淳、北島博之、藤村正哲、難波文彦、柳原格、長谷川妙子、田端厚之、中山雅弘	当センターにおける超早産児からのウレアプラズマ属細菌の検出頻度とその臨床背景	近畿新生児研究会会誌	17	31~35	2008
中山雅弘、桑江優子、松岡圭子、藤原太、白石淳、北島博之、濱中拓郎、末原則幸、長谷川妙子、難波文彦、柳原格	CAM胎盤におけるウレアプラズマの検出とその胎盤	日本周産期・新生児医学会雑誌	44	1045~1048	2008
Kagami M, Sekita Y, Nishimura G, Irie M, Kato F, Okada M, Yamamori S, Kishimoto H, Nakayama M, Tanaka Y, Matsuoka K, Takahashi T, Noguchi M, Tanaka Y, Masumoto K, Utsunomiya T, Kouzan H, Komatsu Y, Ohashi H, Kurosawa K, Kosaki K, Ferguson-Smith A, Ishino F, Ogata T	Deletions and epimutations affecting the human 14q32.2 imprinted region in individuals with paternal and maternal upd(14)-like phenotypes	nature genetics	40	237~242	2008

Sakata N, Toguchi N, Kimura M, Nakayama M, Kawa K, Takemura T	Development of Langerhans Cell Histiocytosis Associated With Chronic Active Epstein -Bar r Infection	Blood Cancer	50	924~927	2008
和田芳郎、望月成隆、高橋伸方、細川真一、南條浩輝、杉本佳乃、西澤和子、白井淳、佐野博之、平野慎也、北島博之、藤原正哲、福井温、末原則幸、桑江優子、中山雅弘、和田芳直、吉田周見、石崎裕美子	トランス脂肪酸が胎児発育その他に及ぼす影響について	周産期シンポジウム	26	49~53	2008
谷岳人、窪田昭男、奥山宏臣、川原央好、清水義之、白石淳、北島博之、桑江優子、中山雅弘	気管食道瘻を伴う気管憩室を生じた新生児の壊死性気管気管支炎の1例	日本周産期・新生児医学会雑誌	44	1216~1220	2008